

教学半也

令和7年9月4日

No.12

全ての読者対象

第3回授業づくり研修会 令和7年8月19日（諏訪・上伊那地区合同） 誰が、何を、どう見とどける？

授業づくり研修会では、授業づくりの基礎として、毎回ポイントを絞って「授業」について考えています。前回までの研修では、授業の『ねらい』『めりはり』について考えました。今回は、『見とどけ』をテーマに、誰が、何をどう見とどけたらよいか、見とどけたことをどう生かしたらよいかについて考えました。



「見とどけ」の大切さを学ぶことができました。授業の中で、児童生徒が学んだことを振り返るためには、「ねらい」がわかりやすいものでなければならないと改めて感じました。授業づくりを通して、児童生徒が予想を立てるにはどうしたらよいかや関心を持つためにどのような手立てが必要かを考えることができました。（参加者の感想）

「見とどける」のは先生の役割だと思っていた、「児童生徒が自らの学びを見とどける」という視点はありませんでした。1時間の授業で、自分ができるようになった事を振り返るのは、特別支援学級でも大切なことだと思いました。（参加者の感想）

見とどけて評価→指導→評価のサイクルを授業の中で取り入れることで、より学習内容の定着につながると感じました。（参加者の感想）

「見とどけ」は、学習内容の確実な定着にとって、とても大切な活動であり支援です。教師にとっては、ねらいの達成を児童生徒の取組から見とどけ、個に応じた指導に生かしたり、授業改善につなげたりすることができます。児童生徒にとっては、ねらいや学習活動を基に「まとめ」や「ふり返し」を記入することで、自らの学びを自覚し、次の学習につなげるはたらきがあります。「見とどけ」は、「主体的な学び」の実現を図るために、大切にしなければならない活動場面であることを確認することができました。授業のねらい・めりはり・見とどけについて、自身の日頃の授業を振り返り、改善に取り組もうと努める参加者の姿が印象的でした。

【お知らせ】

第4回授業づくり研修会は、地区ごと参集での開催を計画しています。

上伊那地区 10月27日（月） 伊那合同庁舎 5階講堂 14:00～16:35

諏訪地区 10月30日（木） 諏訪合同庁舎 5階講堂 14:00～16:35

要項は9月中旬頃に各学校へメールにて送付する予定です。要項が届きましたら内容を確認し、教頭先生にご相談、校長先生にご決裁をいただいた上で、お申込みください。